令和５年度　第３回　都田中学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開 催 日 時　　令和６年２月２９日（木）　１４時００分から１５時１５分まで
２　開 催 場 所　　都田中学校　被服室
３　出 席 委 員　　小林　宗吉、佐藤　元久、下原　直美、下村　優子、神間　郁子
４　欠 席 委 員　　野末　陽平、長谷川　卓人、吉田　恵子
５　学　　校　　服部　裕一（校長）、神村　由貴子（教頭）、鈴木　貞良（教務）、
　　佐藤　奈帆（CS ディレクター）
６　傍　聴　者　　なし
７　会議録作成者　　CS ディレクター　佐藤　奈帆
８　議 長 の 選 出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、下村委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

９　協 議 事 項

（１）学校関係者評価（教務主任）
（２）来年度の学校運営の基本方針（校長）
（３）学校運営協議会の自己評価
（４）夢育やらまいか事業（教頭）

10　会 議 記 録

司会の下村委員から、委員総数８人のうち５人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）学校関係者評価（教務主任）

議長の指示により、教務主任から、別紙資料に基づき学校関係者評価について説明があった。

・3 年生になるに従い、色々考える中で自己評価を低めにする傾向がある。（学校）
・「自分はクラスの役に立っている」という項目に対する回答は評価が低く、自己肯定感が低い、あるいは謙遜している子が多い。（学校）
・「友達や先生など周囲の人とうまく関われている」という項目に対する回答は評価が高く、笑顔で友達と接しているが、都田小・都田南小出身によって 3 年間経過しても隔たりを感じることがある。(学校)
・現在、家庭学習の時間が不足している。危機感はあるが、何をしていいか分からない子が多い。現在、学校で放課後に補習学習を行っており、子ども達は前向きに取り組んでいる。（学校）
・定期的に面談や声掛けを行うようにした結果、生徒から相談されることが増えた。来年度以降も悩みへのアドバイスを継続していく。自転車事故を減らすことも課題である。（学校）
・コロナ禍以前は小学校同士の隔たりは無かった気がする。コロナ禍が関係するのでは。（下村委員）
・コロナ禍以前は、6 年時に小学校同士の交流を 1 年間かけて行っていたこともあった。（学校）
・部活動が、友人関係を築く場となっている。今は部員が減少し、校外で活動している子も多いため、部活動での人間関係が築きづらくなっている。今年度は生徒会主催で、昼休みに学年関係なくレクリエーションを行った。（学校）
・コロナ禍で大きな声を出して挨拶をする機会が減ったが子ども達は挨拶をしている意識はある。(学校)
・子ども同士の壁をなくすには、部活動で先輩、後輩の関係を築くことも大事。（下村委員）
・大規模校と小規模校では感覚が違う。（佐藤委員）
・仲良くしようと思いながら生きるのではなく、関わりの中で自然と友達が出来る社会であって欲しい。

（下原委員）
・昔と今では環境も違う。兄弟も多かったし祖父母も同居していた。（小林委員）
・昔は兄弟が多く、家庭で揉まれる機会も多かった。コロナ禍により、初めて会う人との対話の機会が減ってしまった。顔見知り同士でかたまり、自ら壁を作ってしまう。（下原委員）
・親世代から見て、今の中学生はしっかりしているとの意見をもらった。自転車講座では、中学生が下級生に対して面倒見がよく、しっかりと指導していた。（下村委員）
・子供たち同士が関わり合う場を設定してあげると良い。（学校）
・大人が子ども達に役割を与えることは大事。（佐藤委員）

（２）来年度の学校運営の基本方針
議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき来年度の学校運営基本方針について説明があった。
・少子化が一番の問題で、それに伴う課題を追いかけているだけでは解決しない。（小林委員）
・本当は入部したい部活動があったが、希望している子が少ないと聞き、入部を断念したという話を数名から聞いた。部活動の勧誘があれば入部しやすかったのでは。（下村委員）
・卓球部に関しては、男女混合で練習する場合も出てくると思う。（学校）
・休日に部活動を行いたい子どもと教員が減ってきている。（佐藤委員）
・都会は放課後の過ごし方の選択肢がたくさんあるが、地方は環境が整っていない。先生方は学力重視で頑張ってもらい、放課後は学校と切り離し、子ども達は協働センターの講座に参加することなども良いと思う。（神間委員）
協議の結果、委員全員から来年度の学校運営基本方針について承認を得た。

（３）学校運営協議会の自己評価
・色々な人が色々な意見を言う場として、情報提供の場としては良かった。（佐藤委員）
・大勢の先生方と話し合える機会を作ってもらった。課題を共有し、それぞれの立場から出来ることを考えられる場になった。来年度は課題が改善に向かえばいいと思う。（下村委員）
・積極的に意見交換が出来た。登下校時の見守りを、地域の方々の力を借りて行えたらいい。第二回 CS 会議での先生方との意見交換の場は有意義だった。地域住民の意見も先生方に聞いてもらえた。
個人としての情報発信は出来ていなかった。自治会や回覧板では発信されているが、学校運営協議会に関わっているということが周知されているのかは不明。
来年度の目標として自転車事故ゼロ、職場体験を通して地域との繋がりを作る、放課後や休日に中学生が取り組める活動を始めていきたい。（神間委員）
・CS のメンバーになったことで、都田中の教育について知ることが出来て有意義だった。アフターコロナでの活動、新たな支援学級の設置、不登校の状況、登校時間の変更、2 学期制の導入など学校の改革が進んでいると感じた。情報発信として、会議の内容をこども園の職員に伝えている。（下原委員）
・先生方が課題を掘り下げてくれるのは有難い。これからもお願いしたい。（小林委員）

（４）夢育やらまいか事業
議長の指示により、教頭から、本年度の夢育やらまいか事業についての報告があった。
市より加算された分は、地域と繋がる体験活動として職場体験、教科の充実を図るための講師の依頼に活用した。